

## 折に触れ 四字熟語

### NO. 15 『趁火打却』 ちんか だきょう

< 意味 > 火事場の混乱につけ込んで泥棒を働く。

< 出典 > 「兵法三十六計」 <第五計>

『趁火打却』

解『敵之害大、就勢取利。剛決柔也。』

読み下し： 火に<sup>つけこ</sup> 趁<sup>おしこみ</sup>んで 却<sup>はたら</sup>を打く。

通 釈： 「趁」はつけ込む、「却」は押し込み・強盗の意味。「打」は動作を行うの意味。

「趁火打却」とは、もともと人の弱味につけ込んで押し込み強盗をはたらく、つまり、ここでは火事場泥棒の意味。相手の弱味につけ込み、嵩にかかって攻めたてること。

読み下し： （解）敵の害大なれば、<sup>せい</sup>勢<sup>つ</sup>に就きて利を取る。剛の柔を決するなり。

通 釈： （解）敵の損害が大きい場合には、その形勢に乗じて一気に利益を取る。剛強な者が柔弱な者を圧倒するのである。

一 言： 「China 2049」シリーズその4

「China 2049」の4章に引用されている「兵法三十六計」の四字熟語です。なお、著作では「ちんか だこう」と読んでいますが、参照文献の読みに従いました。

参考文献： 守屋洋著「兵法三十六計」 湯浅邦弘著「孫子・三十六計」